

2022年7月23日

第8回勇希の会

市大センター病院共催 造血幹細胞移植 患者会 第8号

第8回勇希の会 -第5回オンライン勇希の会-



今回の勇希の会は世話人7名、移植経験の参加者さん3名、ご家族1名、治療中の方1名、センター病院の医療従事者1名、計13名が参加しました。盛りだくさんな内容で、急きよ参加者さんのご了承をいただき、終了時間を30分延長しての開催となりました。長時間ご参加いただき、ありがとうございました。

参加者さんから事前にいただいた質問でアンケートを実施

- ①移植を決めた理由 ②セカンドオピニオンの有無
- ③骨髄バンクからのドナー選定とその期間や移植方法
- ④移植前後の放射線治療と抗がん剤による体調の変化
- ⑤移植による合併症(GVHD) ⑥現在の健康状態
- ⑦就労面・金銭面・精神面への対処方法など



次回 第9回 勇希の会

2022年10月8日(土) 14:00~15:30 オンライン開催

市大病院患者会 心愛の会

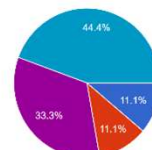
2022年9月14日(水) 14:00~オンライン (ホームページ参照)

事前に実施したアンケート結果を共有しながら進めました。

その一部をご紹介します。

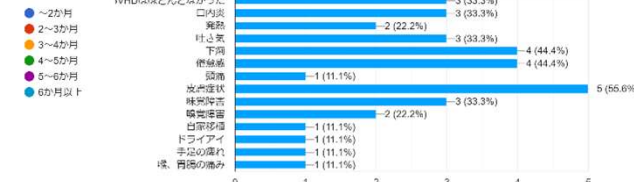
↓おおよその通算入院期間

(11)おおよその通算入院期間
9件の回答



↓移植による合併症(GVHD)

(10)移植によるGVHD(複数回答可) その他の方は症状をご記入ください
9件の回答



【当日のお話から抜粋】

- ・完治を目指すには最善の方法だと主治医の勧めで移植を決意した。
- ・主治医以外のお話も聞いてみたくてセカンドオピニオンを受けた。
- ・主治医と病院を信頼していたので任せる決心をした。
- ・移植をすると子どもの頃の予防接種の免疫がなくなるため摂取し直し。
- ・大きな病気を経験したから、何気ない日常にも感謝できるありがたさ。
- ・生まれ変わったというありがたさで、小さな合併症を気にせず済む。
- ・合併症は人それぞれに大きな違いがあることを改めて知りましたが、経験者の皆さんがそれを気にしすぎることなく、とても元気で頑張っていることがわかり、勇希がもらえました。
- ・仕事は、少しずつ慣らしていったので無事に復帰できた。
- ・移植するかしないかは最終的に自分で判断する
- ・ドナーさんに関しては、移植経験者であり、骨髄バンクのコーディネーターでもある参加者の青木さんに教えていただきました。

【まとめ】 ご質問にお答えしているつもりの世話人たちも、自分の移植のことを思い出して原点に戻った気がしますとの意見もありました。勇希の会開催は、参加者さんに限らず、自分たちも患者経験者であることを再認識し、今までのことを時々振り返るいい機会になっていることを実感しました。